

令和3年度第1回 鹿児島市行政改革推進委員会 概要録

日時：令和3年6月21日（月）15:30～17:00

場所：市役所東別館9階特別中会議室

委員意見、事務局回答	
1	○ 「次世代を担う若者たちを中心とした地球温暖化対策の推進」について、次世代の若者たちに本当にこういうことを意識してもらうためには、ワークショップ等に加え、教育現場・学校教育の中で全体として押し進めていくことが、より必要になってくると思う。
2	○ 「支所機能の充実プランの推進」の項目中、地域おこし協力隊関連の取組については、支所の通常業務の中であったらいいと思うが、やはり地域おこし協力隊のような制度がないと実施が難しいものなのか。他の人材育成事業などとあわせて広げることができたらいいと思う。 → 地域おこし協力隊は、市外の方を、最終的には移住、地方創生に結び付けるという目的で、国からの補助等も得て、地域のPRやイベント等で活動してもらっている。また、支所では地域振興プランを踏まえ、地域コミュニティを中心として、地域振興策を図っている。様々な視点から地域振興を推進しているところである。
3	○ アフターコロナの中で、デジタルというのが非常に大きなキーワードだと思うので、CIO補佐官など民間の知見を活用することは非常に良い話だと思う。ぜひ実効的な運用をお願いしたい。
4	○ 適正な定数管理の推進について、人員削減を進めつつ、一方で新たな行政需要ということで、定数が昨年度比で44人、平成28年度比で107人増えているが、これは、削減を上回る新たな行政需要が増えているため、やむを得ないということなのか、考え方を聞きたい。 → 職員の定数については、今までは、行政改革で削減をしてきたところではあるが、ここ数年は、国体やコロナ対策が要因となり、増やしてきている。その時々々の行政需要や社会経済状況等を踏まえ、また、他都市との比較もしながら、定数が適正になるように管理している。
5	○ 行政改革の取組による効果額とは、歳出をこの分減らしたという金額なのか、あるいは付随的な色々な効果も含んだものなのか。 → 事務事業の廃止や縮減といった歳出を抑えるようなものや、住民税の徴収強化やネーミングライツといった歳入の増加につながる観点のものをプラス効果として算出し、定員の関係で人件費が増えた分などを相殺した結果を効果額としている。
6	○ 新しくコロナウイルス関連の組織が設置されていることについて、ワクチン接種も大分進んできていて、あと数年したら通常の市中感染症みたいな形になることもありうると思うが、この組織は永続的にこのまま残されるものなのか。 → 状況を見極めた上で、最終的にはコロナウイルス感染症が落ち着けば、どこかのタイミングで、組織としては廃止する方向になるかと思うが、現時点ではいつかということは明確には決めていない。
7	○ 管理職の意識をどう変えていくのかという観点から、管理職の研修状況を聞きたい。 → 管理職の研修については、例えば昇任昇格のタイミングで実施するなど、継続的に実施している。
8	○ 民間で対応できる分野は積極的に民間活力を活用し、行政でなければできないような分野に重点対応するということだが、その線引きはどこなのか。 → 厳しい財政状況等もあるので、出来る範囲で、委託できるものは委託するというのが基本的な考え方であるが、費用対効果の観点、市民にきちんとしたサービスを提供する観点などのバランスを見ながら、総合的に判断して行っているところである。

令和3年度第1回 鹿児島市行政改革推進委員会 概要録

日時：令和3年6月21日（月）15:30～17:00

場所：市役所東別館9階特別中会議室

委員意見、事務局回答	
9	<p>○ DBO方式について、20年くらいの契約になり、行政に技術も何も残っているものがなくなると、将来的に何かあった際にカバーできないのではないかと。</p> <p>→ DBO方式については、委託することによって、ノウハウが引き継がれない部分も課題としてあるが、民間でないとできない部分もあるので、相互をうまく生かしながら、官民連携の考えでやっていく必要があるかと思う。また、モニタリングの中で民間業者の状況について確認するなど、適宜適切に管理できると考えている。</p>
10	<p>○ 前よりもICTあるいはスマート化に関する施策が進んできたと思う。ますますDXなども迫られる中で、情報系のリスク管理は重要なことだと思うが、どのように取り組み、どのように考えているのか。</p> <p>→ リスク管理は、地域情報化計画やセキュリティポリシーに基づいて、監査等を実施し、対策を行っている。</p>
11	<p>○ KPI等の評価指標の策定の仕方について、もう少しこうした方が良かったといったアイデアや意見があったときの手続きとやり方について教えて欲しい。</p> <p>→ KPIについては、行政改革大綱には直接は出てこないが、推進計画の中で推進目標を挙げており、こういったものが良かったといったご意見等があれば、教えていただきたい。行政評価でも、成果指標を立てているので、それともリンクしながらまたご意見いただくと助かる。</p>
12	<p>○ ニューノーマルと言うように、社会が変わっていくのは確かだが、新大綱は5年間の計画で、コロナウイルス後をどう見るかということになるので、本市を取り巻く環境の変化の中で、コロナウイルスがあまり前に出すぎではないか。</p> <p>→ 新大綱は5年間という計画であることから、コロナ後の新しい生活スタイルや考え方に置き換わるようなことも想定し策定することとしており、現在のコロナ禍の状況というよりはむしろ少し中長期的な視点で触れさせていたかと思う。</p>
13	<p>○ 温暖化などの地球環境については、新大綱において記載がなくて良いのか。</p> <p>→ 温暖化については、総合計画にぶら下がる別の計画があるので、行政改革大綱については、行政事務の効率化や質の高い行政サービスの提供などにポイントを置かせていただきたいと思います。なお、温暖化対策を進めない行政サービスはなかなか生き残っていけないと思われるので、具体的な記載がなくても、そういった観点も踏まえて骨子を作成しているところである。</p>
14	<p>○ 現大綱では「質」と「量」の2つの推進方針としていたが、新大綱の推進方針を4つにした理由は。</p> <p>→ 現大綱は少し違った視点を取り入れ、性質的なもので分けていたが、新大綱は、総合計画を効果的に推進するため、上位計画である総合計画に軸を置き、具体的に行政改革を進めて行こうという考え方のもとで、分かりやすいようにこのような形としたところである。</p>
15	<p>○ この大綱は、総合計画の中の行財政のところをどう改革するのかということだと思うが、総合計画と大綱との関係性が見えづらい。</p> <p>→ 総合計画に行政改革大綱という言葉は直接には出てこないが、市の最上位計画である総合計画の個別計画として行政改革大綱は位置付けられており、総合計画の個別計画一覧に示されている。</p>
16	<p>○ コロナに限らず、気候変動などで今後様々な天災が増えることはあっても減ることはないだろうという中で、そのような突発的なイベントに耐えられるだけの体力の確保していかなくて良いのか。民間で言えばバランスシートを見るわけだが、そういったところに意を配らなくて良いものなのか、考え方を教えて欲しい。</p> <p>→ バランスシートを黒字に保つことが、行政においても基本である。ただ、令和3年度当初予算は、コロナ禍の中で久しぶりの赤字となり、財政調整基金を充てることで予算を組むことができた。財政調整基金を調整弁としつつ、例えばコロナ禍は日本全体の問題でもあるので、国には必要な国庫財源を要望していきたいと考えている。</p>

令和3年度第1回 鹿児島市行政改革推進委員会 概要録

日時：令和3年6月21日（月）15:30～17:00

場所：市役所東別館9階特別中会議室

委員意見、事務局回答

17	<p>○ 人口が減少し、人や財政といった行政資源も限られていき、公共施設やインフラの維持をダウンサイジング、取捨選択していくことが迫られる中、エビデンスに基づいてある程度透明性を持つことが避けられないと思われるため、EBPMで見える化していくことは賛成で、ぜひ効果的な形でやっていただきたい。</p> <p>→ EBPMについては、今年度はまずは職員に浸透を図ろうということで、職員向けの研修を開催する予定である。また、来年度以降は、因果関係を表すロジックモデルを使い、企画立案に取り組んでいけるよう計画しており、今、調整しているところである。</p>
18	<p>○ 需要が増える中で、どうやって質の高い行政運営をしていくかということは非常に難しく、重要な課題である。また、市役所がブラックな職場で優秀な人材が来ないというのでは、市民のためにもならない。そういう観点から、人材育成を推進方針の項目としたことは、ポジティブで良い。他方、地域団体やNPOなど民間事業者の方もパブリックな役割を担っているとしたら、そういう方々にも意を配るような項目立てはできないか。</p> <p>→ 地域団体等との関係については、項目としては挙げていないが、地域との連携という部分については、「質の高い効率的な行政運営」の中にその視点・考え方を盛り込んでいるので、計画の項目等として挙げていこうと考えている。</p>
19	<p>○ 「本市を取り巻く環境の変化」のところで、新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化が一番に来ているところに少し違和感を感じる。もちろん、この問題が大きかったというのは分かるが、むしろデジタル化やICT利活用の推進というところが、日本全体で、世界に比べて遅れていることが炙り出されてきたことの方が大きいと感じる。デジタル化が進みリアルで庁舎に来る人が減っていけばリアルな広告の価値が下がることから、庁舎内広告に応札がなかったのも致し方ないと思ったりする。こうしたことから、デジタル化を進めていく上では発想も根本的に変えていく必要があると思うが、次期大綱の推進方針等の中で、根本的な発想の転換のようなところがはっきりとは感じられないので、それぞれの推進項目の細かな部分に期待していきたい。</p> <p>→ コロナウイルスの拡大による社会の変化というのは非常に重要なものと捉えており、コロナウイルスが収まっても、もう元の社会には戻らないというふうに思っている。ICTも、もともと進もうとしていたものが、進めざるをえないという状況になっている。今後どうなっていくのかを考え、あらゆる事業計画を見直さなければいけないことから、影響は非常に大きいものと考えている。</p>
20	<p>○ 様々な取組がなされているが、評価はしているのか、また、市民の声は反映されているのか。</p> <p>→ 行政評価を実施してきており、定量的な部分は今後はEBPMというデータを活用したもので、もう少し分かりやすい形にできないか検討をしているところである。また、市民アンケートや窓口満足度調査などにより市民の声を反映するよう取り組んでいる。</p>
21	<p>○ コロナウイルスの関係は、大綱の中ではより具体的に、分かりやすく書いてあると良い。また、「時代の大きな転換期」という表現は、色々ところで聞いてきていており、別に良い表現がないか検討を。</p> <p>→ 素案については、伺ったご意見をもとにたたき台を作るので、分かりやすい形で表記・表現できたらと思う。次回、またご指摘いただきたい。</p>
22	<p>○ 第七次行政改革大綱の骨子は分かりやすく分かれていて、現大綱より良い。</p>
23	<p>○ イベントリスクについて、財政的なこと以外にも、人材的な部分とか、技術や経験をためていくとか、お金でない部分もある。効率というと、健全な幸せな状態のときに無駄と思われるものをカットしてスリムにしていきたいと思います。我々は幸せでないことが突然来るということを経験した。今は無駄に見える施設とか交通インフラとかかかもしれないけれども、いざとなった時はこのキャパが必要とか、そういう視点を持っていくというのが、皆が頼りにしている鹿児島市としてあった方が良かったので、その辺についても表現をお考えいただきたい。</p>